

37. 釧路市地域公共交通再編実施計画

- まちづくりの動向を踏まえ、段階的に運行サービスを高めるバス路線網の再編
- 立地適正化計画と整合した乗換拠点にて支線系路線と在来の路線バスによるゾーンバス化
- 市立病院を拠点としたゾーンバスは病院建替計画が確定した段階で再編実施計画を変更
- 乗換拠点の待合環境の整備、乗換割引、乗換え待ち時間に配慮したダイヤを設定
- 郊外部においてはデマンド型交通の導入・転換により持続可能な生活交通を確保

【主な事業内容】

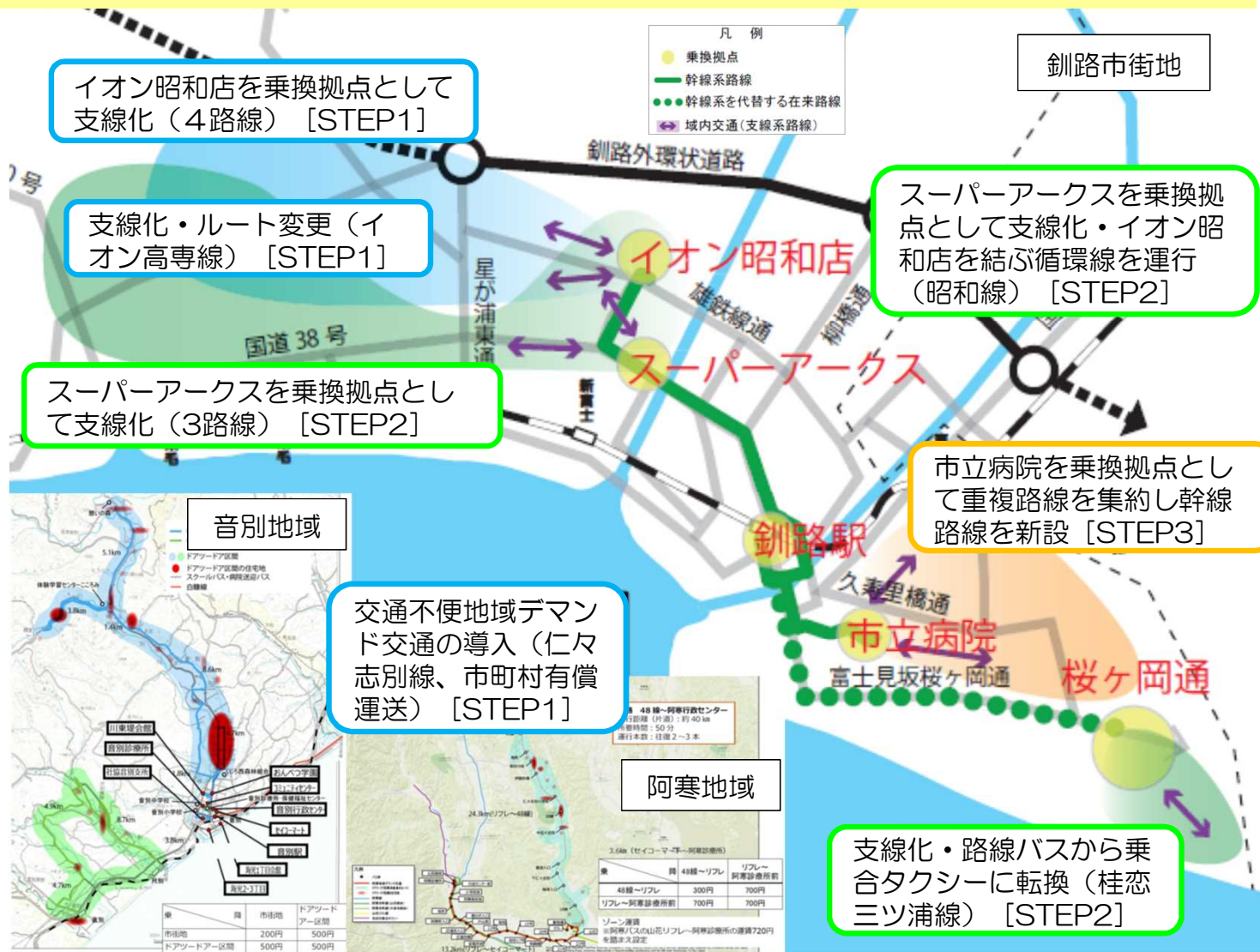
STEP1

- ・イオン昭和店を乗換拠点として、支線系路線と在来の路線バスによるゾーンバス化
- ・幹線系路線である昭和線のイオン昭和店への乗り入れ及び増便
- ・JRや音別線との接続利便向上のため白糠線の音別駅構内への乗り入れ

STEP2

- ・スーパーアークス及び桜ヶ岡通の各乗換拠点のゾーンバス化
- ・昭和線をスーパーアークス、イオン昭和店、釧路北病院を結ぶ循環系統化
- ・桜ヶ岡通を乗換拠点として路線バスから乗合タクシーへの転換による桂恋三ツ浦線を新設
- ・幹線系路線である大楽毛線のスーパーアークスへの乗り入れ
- ・幌呂線の廃止及び支線化検討

※STEP3は市立病院の建替計画がある程度確定した段階で作成



イオン昭和店を乗換拠点として支線化（4路線） [STEP1]

支線化・ルート変更（イオン高専線） [STEP1]

スーパーアークスを乗換拠点として支線化（3路線） [STEP2]

スーパーアークスを乗換拠点として支線化・イオン昭和店を結ぶ循環線を運行（昭和線） [STEP2]

市立病院を乗換拠点として重複路線を集約し幹線路線を新設 [STEP3]

交通不便地域デマンド交通の導入（仁々志別線、市町村有償運送） [STEP1]

支線化・路線バスから乗合タクシーに転換（桂恋三ツ浦線） [STEP2]

釧路市地域公共交通利便増進実施計画(概要)

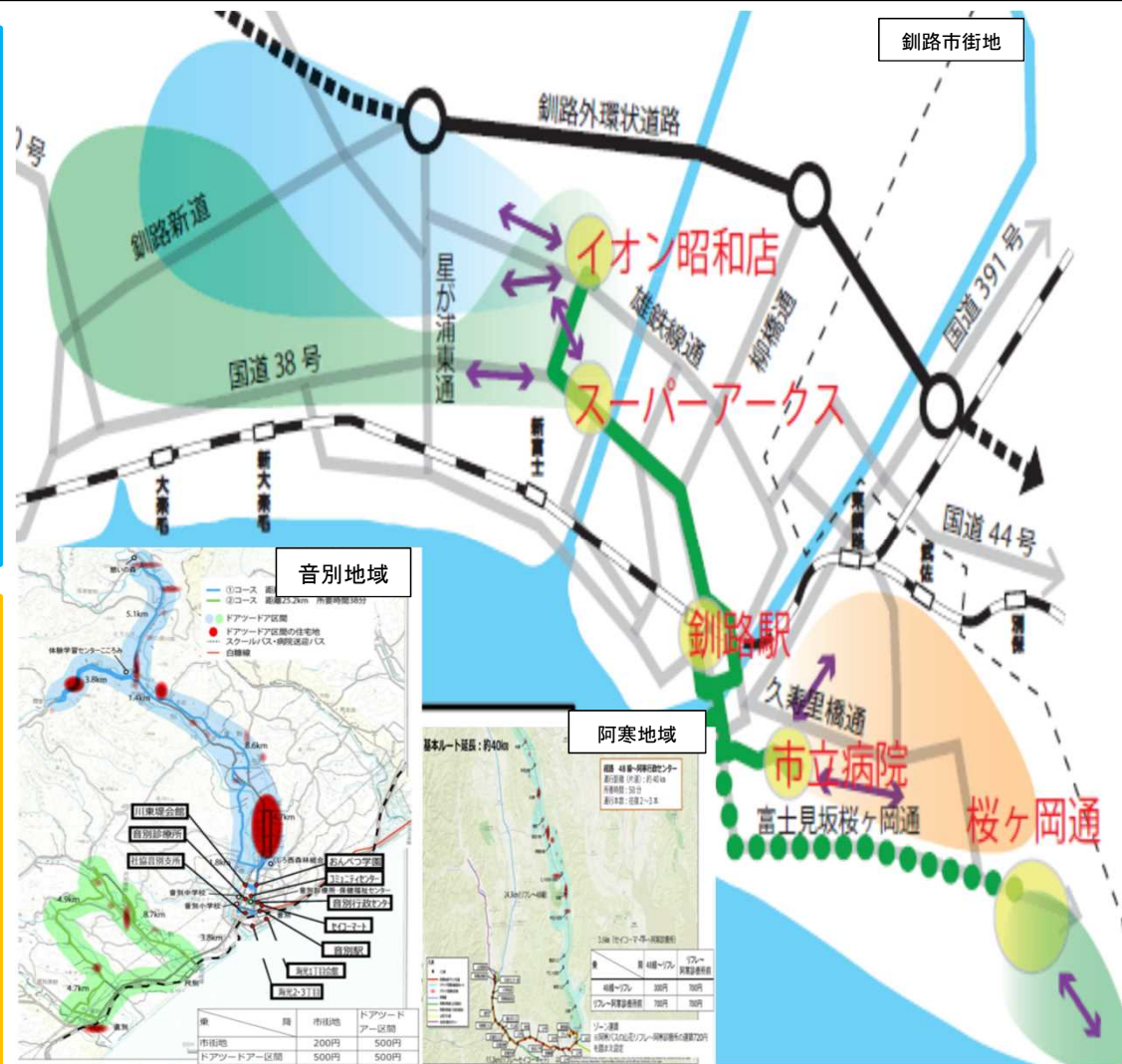
- 釧路市のバス路線は釧路駅前に向かって重複しており、駅前では便数が充実しているが、郊外部では便数が少ない箇所がある。また、路線が長いことにより運行時間が不正確となっており、市民が運行時間や待合環境に不満を持っている。少子高齢化等も併せてバス利用者が減少、市の負担が増加傾向にある。
- そのため、利用しやすく持続可能な路線網とするための再編、立地適正化計画と整合した乗換拠点によるゾーンバス化を行う。

事業の内容

- ① 都心部の路線集約と乗換拠点で郊外路線と接続するゾーンバス化**
イオン昭和店を乗換拠点として、一部路線の分割による支線化、在来路線の増便により幹線化を行う。(STEP1) スーパーアークス等を乗換拠点とするゾーンバス化。スーパーアークス、イオン昭和店を結ぶ循環線運行。(STEP2)
- ② 交通不便地域等へのデマンド型交通の導入**
交通不便地域となっている阿寒地域、音別地域にデマンド型交通を導入。(STEP1) 非効率となっていた昆布森線を廃止し、桂恋三津浦地区にデマンド型交通を導入。(STEP2)
- ③ 待合環境の整備、乗換割引、乗換待ち時間に配慮したダイヤの設定**
乗換拠点の待合環境の整備により、ハブとしての機能充実を図る。また、乗換割引や乗換時間に配慮したダイヤの設定を行う。

事業の効果

- ・市内バス路線の定時性確保と事業収支の改善
運行距離の長い路線の一部分割、支線化によりわかりやすく効率的な路線網とすることで、定時性の確保、事業収支の改善が見込まれる。
- ・交通不便地域の高齢者等の利便性向上
路線バスや鉄道との乗り換えに配慮したデマンド型交通の導入により、市街地への買い物や通院等、高齢者の外出の利便性が向上。また、事業収支の改善が見込まれる。
- ・市民1人当たりのバス利用割合の増加
待合環境の整備、乗継割引券の導入等により乗換抵抗の緩和、バスの利用促進を図り市民1人当たりのバス利用割合の増加が見込まれる。



・作成自治体 北海道釧路市
 ・事業実施区域 釧路市
 ・事業実施予定期間 R1年10月～R9年3月